

芸術色彩研究会発足のお知らせ

2018年3月1日

芸術色彩研究会（芸色研）は、中村ケンゴ、三木学、岩泉慧による研究会です。2017年4月29日、画材ラボ PIGMENT で開催された、トークイベント「色彩と質感の地理学—日本と画材をめぐって」を機に発足いたしました。

芸色研では、芸術表現における色彩の研究を、狭義の色彩学に留まらず、言語学や人類学、科学、工学、認知科学など様々なアプローチから行います。そして、色彩から芸術表現の奥にある感覚や認知、感性を読み解き、実践的な創作や批評に活かすことを目指します。

ここで指す色彩は、顔料や染料、あるいはコンピュータなどの色材や画材だけではなく、脳における色彩情報処理、また素材を把握し、質感をもたらす要素としての色彩、あるいは気候や照明環境など、認知と感性に大きな影響を及ぼす色彩環境を含むものです。それは芸術史を、環境と感覚の相互作用の観点から読み直すことにもなるでしょう。

これまで画材ラボ PIGMENT で開催されたトークイベントをはじめ、新学術領域「多元質感知」での講演、議論などを行ってきました。今後は定期的に、色彩と質感に関する多様な識者を招いて、トークイベントや、色彩や質感に関する様々なワークショップや講演を開催していき、定期的に研究成果をインターネットにアップしていきます。

活動内容は、今後の活動内容は開設したこちらの公式サイトからご覧ください。

■芸術色彩研究会公式サイト

<http://geishikiken.info/>

また、公式サイト開設にあたり、「色彩と質感の地理学—日本と画材をめぐって」のトークイベントを公開いたします。是非、様々なご意見をお寄せください。またこの企画の続編も画材ラボ PIGMENT にて開催予定です。

<http://docs.geishikiken.info/>

■メンバー

中村 ケンゴ



美術家。現代社会を表象するモチーフから、美術史上のさまざまなイメージまでをも用いたユニークな絵画を制作。国内外の展覧会、アートフェアに多数出品。展覧会、シンポジウムなどアートプロジェクトの企画運営にもあたる。共編著『20世紀末・日本の美術—それぞれの作家の視点から』(アートダイバー)。多摩美術大学大学院日本画専攻修了。<http://www.nakamurakengo.com>

三木 学



文筆家、編集者、色彩研究者、ソフトウェアプランナー他。独自のイメージ研究を基にした編集、執筆、ソフト開発、ライセンス・マネジメント等を行っている。共編著に『フランスの色景』、『大阪モダン建築』、ヤノベケンジ『ULTRA』(すべて青幻舎)などがある。画像色解析システム『Feelimage Analyzer』(ビバコンピュータ株式会社)で「マイクロソフト・イノベーションアワード 2008 優秀賞」、「ソフトウェア・プロダクト・オブ・ザ・イヤー 2009」受賞。音楽自動生成スライドショーシステム『PhotoMusic』ディレクター。「あいちトリエンナーレ 2016」コラムプロジェクト『アーティストの虹-色景』ディレクター。

岩泉 慧



美術家、京都造形芸術大学講師、画材ラボ PIGMENT 所長。2015年に絵画表現における膠使用方法の論文で博士号を取得。PIGMENT や京都造形芸術大学にて膠を基点とした様々な画材の研究、指導を行なながら、物質存在に関する作品により作家としても活動を続けている。

■お問い合わせ

取材等のお問い合わせは各メンバーの E-mail にてご連絡ください。

中村 ケンゴ : kengo@sb3.so-net.ne.jp

三木 学 : manabumiki@gmail.com

岩泉 慧 : meteor.heart.0401@gmail.com